

■欧州：JRC、低炭素技術の普及拡大に伴う希少金属の調達リスクを指摘

2011年11月10日、欧州委員会の共同研究センター（JRC）は、欧州が今後の低炭素技術開発戦略を推進する上で必要となる希少金属の調達が将来的に困難になる可能性があるとする報告書を発表した。とりわけ調達リスクが高いとされるのは、ネオジウム、ジスプロシウム、インジウム、テルル、ガリウムの5種類。報告書は、欧州で太陽光技術が大規模に展開するためには、全世界における現在のテルル供給量の50%、インジウム供給量の25%が必要となり、同様に、風力技術についても、大量のネオジウム・ジスプロシウムが必要となる。そして、供給リスクを軽減するためには、リサイクル・再利用の促進、代替原料の模索、あるいは欧州域内での生産も視野に入れる必要があるとしている。今回の報告書は、欧州委員会の戦略的エネルギー技術計画（SET-Plan）における優先分野（原子力、太陽、風力、バイオ、炭素回収貯留、電力網）の技術開発を対象としているが、JRCは今後、電気自動車や電力貯蔵、照明、燃料電池を対象とした調査を実施する方針である。